



(社)米沢有為会米沢支部総会は6月1日(土)午後3時からホテルサンルート米沢で開催されました。議事では平成24年度米沢支部の庶務報告及び収支決算を承認。25年度事業計画(案)及び収支予算(案)も原案通り可決されました。また役員改選では理事・評議員について一部変更があり、(種村信次さんの副支部長就任など)これも了承されました。(新役員は別載)

報告では、公益社団法人への移行の状況について本部の鈴木信之さんから説明があり、手続きは順調に進んでおり、明るい見通しであることが述べられました。

総会に引き続き米沢支部表彰式が行われ、18個人・4チームに特別顕彰が贈られました。(詳細は次ページ)

はじめに、六月一日の二十五年度米沢支部総会において副支部長を拝命いたしました。公益法人化という大きな変革と地域社会の構造変化という大変な時期にお引き受けし、責任の重さを痛感しております。伝統ある米沢有為会の中核をなす米沢支部の役割は今後ますます重要であり、会員の皆様と共に一致協力して取り組んでまいりたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。次に、昨春秋米沢有為会名誉会長上杉邦憲様は、永年に亘る宇宙航空研究分野におけるご功績に対し、国際宇宙航行連盟から「アラン・D・エミール記念賞」が贈呈され、五月二十七日、上杉邦憲様ご夫妻をお招きして関係団体の皆様と共に「ご受賞を讃える会」を開催致しました。改めて心よりお祝いを申し上げますと存じます。なお、この会には上杉邦憲様のご長男裕憲様が同席され、出席の皆さんとは初めて交流の場となり、有為会はじめ各団体にとって意義深いものとなりました。

さて、二十五年度米沢有為会総会の前日、六月二十二日に待望の公益法人化内定の通知が入り、同二十七日認定書交付、七月一日登記を行い、正式に「公益社団法人米沢有為会」となりました。本部において四年前から準備が進められ、この間幾多の困難な問題を都度克服しつつ、関係者のご苦勞が漸く実を結びました。

一方、公益法人化に伴い、幾つかの重要な項目の変更を余儀なくされました。定款の変更により会計制度は勿論、理事会は理事本人出席で過半数出席により成立し、総会は委任状を含む過半数の出席が必要であり、これまでの理事や会員制度、会費等も大きく変更することになり、当局への様々な報告義務も増えました。

今後米沢有為会発足の精神に立ち戻り、置賜地方から有為な人材を育成し、国や世界で、あるいは地元に戻って活躍する多くの人材を輩出する力強い一助となるよう、会員の皆様と共にこれまで以上に多くの正会員、賛助会員を擁する充実した組織に向けてご協力をお願い申し上げます。



第 27 号

平成25年 8月10日

発行者

(社)米沢有為会米沢支部

支部長 安部三十郎

米沢市金池5-2-25

☎ 0238-22-5111



副支部長

種村 信次

公益社団法人となつて

18個人・4チーム を特別顕彰

支部総会の席上、米沢支部特別顕彰として昨年を大幅に上回る次の18個人、4チームが表彰されました。今回も教育功勞者、産業功勞者の該当はありませんでした。なお、本部表彰者は有為会誌で詳しく紹介されます。受賞者は次の通りです。(学校・学年は平成24年当時のものです。)



支部特別顕彰

▼皆川和輝さん

(赤湯小6年)

県小学生陸上大会男子走高跳・優勝 県少年少女スポーツ交流大会男子走高跳・優勝 全国小学生陸上交流大会男子走高跳・10位

▼高梨早紀さん

(赤湯小6年)

県小学生陸上大会女子80Mハードル・2位(1位と同記録)

県少年少女スポーツ交流大会女子80Mハードル・優勝

▼古山萌子さん

(亀岡小6年)

青少年読書感想文全国コンクール・県審査会・最優秀賞 全国審査・サントリイ奨励賞(応募44.5万点中、上位10作品に)

▼長井小水泳女子リレーチーム

渡部麻白さん・荒井ゆきえさん・小松七央さん・小笠原琴葉さん

県選抜学童水泳記録会女子200Mフリーリレー・優勝 同メドレーリレー・優勝

▼工藤雅也さん

(米沢一中3年)

東北中学校水泳大会男子100M背泳ぎ・3位 同200M背泳ぎ・6位

▼高橋昂士さん

(米沢一中3年)

東北中学校スキー大会スベシャルジャンプ・優勝 コンバインド・8位 全国中学校スキー大会スベシャルジャンプ・8位

▼我妻和希さん

(米沢一中3年)

東北中学校スキー大会男子スラローム・3位

▼木村隼也さん

(米沢一中2年)

東北中学校相撲大会2年生の部・5位

▼松本 駿さん

(米沢二中3年)

全国中学校水泳大会飛板飛込・3位 全国JOCジュニアオリンピックカップ飛込競技(男子14~15歳) 高飛込・3位

▼村山詩織さん

(米沢五中3年)

東北中学校陸上大会女子200M・優勝 女子400Mリレー・優勝 全国中学校陸上選手権大会女子200M・8位

▼米沢五中陸上400Mリレーチーム

村山詩織さん・曾我実来さん・野老菜々さん・堀内美穂さん

東北中学校陸上大会女子400Mリレー・優勝

▼近田実穂さん

▼鈴木美緒さん

(米沢五中2年)

東北中学校スキー大会女子3キロフリー競技・8位

▼狩野七海さん

(米沢六中3年)

東北中学校陸上大会女子200M・8位

▼猪野ちひろさん

(宮内中1年)

ジュニアオリンピック陸上大会C女子走幅跳・4位

▼佐藤 和さん

(宮内中1年)

県英語弁論大会暗唱の部・優勝 東北六県中学校英語暗唱・高校弁論大会中学校の部・2位

▼川西中学校女子ホッケー部

(高畠一中2年)

県中学校総合体育大会柔道女子個人52キロ級・優勝 東北中学校柔道大会同級・3位 全国中学校柔道大会同級・出場

▼高橋かおりさん

(川西中3年)

東北中学校ホッケー選手権大会・3位 全国中学校ホッケー選手権大会・ベスト8

▼神保 茜さん

東北中学校陸上大会共通女子走幅跳・6位 全日本中学校通信陸上大会同競技・5位 国民体育大会陸上少年少女B走幅跳・出場

▼吉田菜穂さん

(中央高校3年)

国民体育大会少年男子バスケットボール・3位

▼南陽高校ビームライフル男子団体

(九里学園高校1年)

国民体育大会陸上女子B100Mハードル・3位 日本ユース選手権陸上女子100Mハードル・5位

▼神保 茜さん

(南陽高校3年)

全国高校ライフル射撃選手権大会エアライフル女子・2位 国民体育大会女子エアライフル立射・5位



平成24年度 決算

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

〔収入の部〕

項目	予算額 ①	決算額 ②	比較増減 ②-①	摘要
繰越金	94,973	94,973	0	
会費	1,810,000	1,794,458	△ 15,542	通常会員会費 @3,000×422人= 1,266,458 特別会員会費 @7,000×54人= 378,000 賛助会員会費 @10,000×15人= 150,000
諸収入	27	83	56	預金利息等
(収入合計)	1,905,000	1,889,514	△ 15,486	

〔支出の部〕

項目	予算額 ①	決算額 ②	比較増減 ②-①	摘要
1 本部費	905,000	897,229	△ 7,771	会費納付金 1,794,458 × 1/2
2 事業費	355,000	312,721	△ 42,279	
教育奨励費	75,000	75,230	230	教育功勞・特別顕彰表彰状及び記念品等
産業振興費	30,000	0	△ 30,000	
講演会・交流会費	100,000	88,931	△ 11,069	講師謝礼及び交流いも煮会費
支部だより費	150,000	148,560	△ 1,440	支部だより印刷、郵送料
3 管理費	535,000	400,562	△ 134,438	
事務費	120,000	120,000	0	常務理事報酬
会議費	5,000	0	△ 5,000	
総会費	70,000	43,700	△ 26,300	総会案内郵送料、案内印刷
通信運搬費	150,000	119,720	△ 30,280	理事会・会報・会誌等送料
印刷費	100,000	48,779	△ 51,221	浄書印刷、封筒印刷等
諸手数料	55,000	50,425	△ 4,575	郵便振替手数料(会費振込分)等
消耗什器備品費	20,000	16,138	△ 3,862	ゼロックス代等
交通費	10,000	0	△ 10,000	
諸雑費	5,000	1,800	△ 3,200	弔電代(横澤三男氏・清野幸男氏)
4 予備費	10,000	21,000	11,000	コミュニティFM広告代
5 次期繰越金	100,000	258,002	158,002	
(支出合計)	1,905,000	1,889,514	△ 15,486	

平成25年度 予算

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

〔収入の部〕

項目	本年度予算額 ①	前年度予算額 ②	比較増減 ①-②	摘要
繰越金	258,002	94,973	163,029	
会費	2,230,000	1,810,000	420,000	正会費 @7,000×50人= 350,000 賛助会員(個人) @3,000×460人=1,380,000 賛助会員(法人) @10,000×50人= 500,000
諸収入	98	27	71	預金利息等
(収入合計)	2,488,100	1,905,000	583,100	

〔支出の部〕

項目	本年度予算額 ①	前年度予算額 ②	比較増減 ①-②	摘要
1 本部費	1,115,000	905,000	210,000	会費納付金 2,230,000 × 1/2
2 事業費	520,000	355,000	165,000	
教育奨励費	235,000	75,000	160,000	教育功勞・特別顕彰表彰状及び記念品等
産業振興費	35,000	30,000	5,000	産業功勞表彰状及び記念品
講演会・交流会費	100,000	100,000	0	講師謝礼及び案内印刷、郵送料等
支部だより費	150,000	150,000	0	支部だより発行(2回)印刷、送料
3 管理費	610,000	535,000	75,000	
事務費	120,000	120,000	0	常務理事報酬
会議費	5,000	5,000	0	諸会議費
総会費	70,000	70,000	0	総会案内、資料印刷、運送料等
通信運搬費	200,000	150,000	50,000	理事会・会報・会誌等送料
印刷費	120,000	100,000	20,000	案内葉書、封筒印刷等
諸手数料	60,000	55,000	5,000	郵便振替手数料(会費振込分)等
消耗什器備品費	20,000	20,000	0	ゼロックス代等
交通費	10,000	10,000	0	
諸雑費	5,000	5,000	0	
4 予備費	63,100	10,000	53,100	
5 次期繰越金	180,000	100,000	80,000	
(支出合計)	2,488,100	1,905,000	583,100	

リレー随想 ⑬

或る本との出会い

大道寺 七兵衛

(山形市在住 医師)

私が仙台興譲館寮に入寮したのは昭和41年4月である。はるか昔のことであるが、その時の多くを何故か生々しく覚えていて。

今思えば、それほどの努力をした訳でもないが、3・4カ月の受験勉強から解放され、医学部とは言っても始めの2年間は教養部で、高校の先をほかしたようなけだるい日々の中で、私は突然に或る本に出会い、まさに雷に打たれた如くの衝撃を受けた。

その本こそ岩波新書の『心の風景』という鳥崎敏樹の著書であった。今までの詰め込まれた知識の量に喜びを感じていた5・6年間の自分をひっくり返すような出来事であったことには違いない。ともかくも、その事件以後、世の中が変わって見えた。勉強する意味が分からなくなったのである。というより理屈では、人を診る医者になるためには、いろいろと必要なことを知らなければならぬ、とわかるのだが、教養部での授業とは結びつかない。うわべで分かっているが体が動かないと

いうことである。

つまり、今まで自分を動かしてきた原理が、いきなり小さな部分品になり、その部分品で動くはずの大きな本体が見えない、というような状況であった、と今考えるとそんな風である。

その衝撃以降、手当たり次第に本を読むのが日課のようになった。目を覚ませば昼頃のことでも多くなり、授業は遠のいていくばかりであった。おかげで教養部を出るときには大変な目にあつた。語学以外はほぼすべて2次試験だったと思う。手付かずの微積分や代数幾何の教科書それぞれ一冊を一夜漬けてやつつけようというわけである。3日目位になると、いかに鉄の心を持ってしても睡魔に抱かれてしまう。そして明日の試験は偵察ということになる。順調だった連中より春休みが2週間くらいは短くなってしまった。

しかし、それで妙な自信がついて、今でも私の悪い習慣になっている。ギリギリの所で頑張れば何とかなる。つまりギリギリまで放っておけ。それですべてが何とかならぬではないか。しかし、人生そのものがギリギリに近くなっている現況を思うに、鞭を入れるコーナーは過ぎたのだろうか。

～ 活躍する会員紹介 ～ ⑮



佐藤 広明 さん

米沢市上杉博物館館長

Q1 上杉博物館館長にご就任、おめでとうございます。館長は米沢興譲館の校長でしたよね。

A1 はい。県立高校の教師を勤めてきました。興譲館には都合3回、18年間お世話になりました。教頭も務め、校長として3年間就任後、退職したところです。置賜地区では置賜農業高にも勤務したことがあります。

Q2 早速ですが、館長就任に当たっての抱負をお聞かせください。

A2 上杉博物館は文字通り米沢のランドマークです。観光拠点のみならず上杉文化研究のメッカとして存在価値を高めていきたい。信頼され、かつ親しまれる博物館を目指します。国宝2点、重要文化財3点も所蔵する博物館は数少ないので、米沢市民の方に誇りを持ってほしいと思います。

具体的な事業としては、常設展示では展示、シアターやジオラマの他、古文書を昔のように折ってみたり、鉄砲を撃ってみるなど体験してもらっています。企画展は年間6本準備していますが、歴史と美術展が半々かな。郷土関連の人など織り込みながら工夫を凝らしています。

また、博物館には情報ライブラリーや体験学習室、カフェなども設置してあります。生涯学習の場として、小・中・高校生だけでなく、多くの市民の方々の利用を期待しています。博物館サポーターとしての各種のお手伝いも頂いており、感謝申し上げますとともに、もっと多くの方に手助けして頂ければと思っています。

Q3 米沢有為会事業について、望むことなどありますか。

A3 有為会は130年近くの歴史があり、郷土の青少年育成に多大な功績を残されていることは敬意を表するものです。会員の皆様が郷土を愛し、連綿と後輩育成のために尽くされておられることは、他に類を見ないことでしょう。敢えて望むことと言えば、奨学金制度をより充実してもらえればと思います。難しい要望かもしれませんが、その時々世相によって、経済的に厳しい家庭があると思うので、もっと門戸が広がればいいなと希望しています。

Q 有り難うございました。今後のご活躍を期待いたして居ります。

新役員の紹介 (敬称略)

- ◆副支部長 種村 信次
- ◆支部理事 大貫 英一
- 伊藤 和夫
- 金子 周治
- 宮坂 真一
- 津坂 宏
- 支部評議員

編集後記

▼宇宙飛行士・若田光一氏の講演を聴いた。米沢市児童会館の開館30周年記念事業で、タイトルは「国際宇宙ステーション長期滞在飛行に参加して」。うかがい知れないステーションの内情や無重力での行動など、興味深い話だった。▼何よりの質疑応答の際、若田さんが質問の子どもの前に行き、目線をあわせながら丁寧に答え、決して宇宙への夢を壊さず空想が広がるように話す姿に感銘した。▼さすがに日本を代表し、多国籍の6人と狭いスペースで長期間、生活できる人間としての素晴らしさを感じさせられた。11月には機長も務めるとか。ぜひ成功し